

「(仮称) 町田市産業振興計画 19-28」第6回策定検討委員会 議事要旨

日 時 2019年1月11日(金) 17:00-19:00

場 所 町田市庁舎2階 市民協働おうえんルーム

出席者 大久保委員長、糸久副委員長、佐藤委員、佐々木委員、菅野委員、太細委員、小山委員
(委員以外の出席者) 小田急電鉄株式会社 西村氏(露木委員代理)
日本政策金融公庫 立本氏(安藤委員代理)

事務局 経済観光部長 小池、産業政策課長 井上、産業政策課 佐藤、渡邊、五十嵐

1 第5回委員会の振り返り

2 報告

(1) パブリックコメントの実施結果について

■菅野委員

- ・パブリックコメントでいただいたご意見の取り扱いに「他部署への周知」とあるが、今後、いただいたご意見を他部署と共有、調整し計画に反映していくのか。

■事務局

- ・産業振興計画に関係するご意見については、他部署と共有、調整した上で計画に反映し、産業振興計画に直接関係しないご意見については、関連部署に対応をお願いします。

■糸久副委員長

- ・個別の施策レベルでは、町田市の特徴を活かした「尖った」計画になるとよいのではないかと思います。

■佐々木委員

- ・資料1のNo.2-2に「創業セミナーだけではなく個別支援型の創業支援も併用してほしい」との意見があるが、こうした支援は既に行っており、周知に関する努力が不足していたのではないかと感じた。他にも、既に実施されているものの、十分に認知されていないと思われる活動があるので、事業者に分かりやすいよう、支援情報の発信を強化し、周知を徹底する必要があると感じる。

■西村氏

- ・いただいたご意見に対して、計画に「反映済み」とされている部分も多々あるが、反映しただけでよしとするのではなく、計画の実施において今後どのように意見を活かしていくのか、引き続き検討する必要があるのではないかと感じる。

■事務局

- ・今回は、まず基本計画を策定する際の考え方として反映したということなので、実行計画に落とし込む際や、実際に事業に取り組むにあたって、いただいたご意見を参考にしていきたい。

3 議題

(1) 計画書案の確認

【目次について】

■佐藤委員

- ・目次の「(4) ビジネスをしやすい、働きやすいまちづくり」はサブタイトルを記載しないのか。「(1) “立ち上げる” チャレンジ」、「(2) “拡げる” チャレンジ」、「(3) “つなぐ” チャレンジ」はサブタイトルも記載されている。

■事務局

- ・(1) から (3) と同様に、(4) についてもサブタイトルを記載することとしたい。

【コラムについて】

■大久保委員長

- ・コラムには図や写真も載せるのか。また、どういった方に読んでいただくことを想定しているのか。

■事務局

- ・図や写真を掲載しながら取り組みをご紹介できればと考えている。読み手としては、産業振興計画なので、事業者の方や産業支援に関連する立場の方が多いのではないかと想定している。

【各チャレンジのサブタイトルについて】

■西村氏

- ・各チャレンジにサブタイトルをつけたのはよいと思う。さらに、計画の内容をイラストで表現したり、人の目に付きやすい場所で PR したりすることで、市民の方に「町田市はこんないろいろなことをやっている」ということを PR できるとよいのではないか。

■事務局

- ・計画書では、計画の内容を見やすく、わかりやすく表現するため、各チャレンジのロゴマークを掲載することを予定している。PR の方法については、計画を策定しただけでは市民の皆様に見ていただけないと思うので、出来るだけ多くの方に見ていただける方法を考えていきたい。

■糸久副委員長

- ・サブタイトルをつけることで、チャレンジの内容が分かりやすくなったと思うが、「(4) ビジネスをしやすい、働きやすいまちづくり」のサブタイトルにある「ちょうどいい」とは具体的にどういうことか。

■事務局

- ・これまで、町田市のシティプロモーションにおいて「色々な選択ができるまち」ということを掲げてきた。キャッチフレーズの検討にあたっては市内事業者の声なども聞いたが、その結果などを踏まえ、「都会でもなく田舎でもない」という中間的な位置づけの土地で、いろいろなライフスタイルが実現できる、ひとりひとりに「ちょうどいい」まちであるという意味をこめているが、その意味が「ちょ

うどいい」という言葉で伝わるかどうか、気になるところではある。

■大久保委員長

- ・「ちょうどいい」という言葉の他によい表現はあるか。

■佐々木委員

- ・見る人によって様々な受け取り方ができる表現というのもよいのではないか。「ちょうどいい」と「いちばん良い」とあるが、「いい」と「良い」はあえてひらがなと漢字を使い分けているのか。

■事務局

- ・もともと明確な意図があった訳ではないが、結果的にこのように使い分けた表現がよいと感じている。
大久保委員長：「（４）ビジネスをしやすく、働きやすいまちづくり」に、「ちょうどいいまち」がどのようなものをまとめたコラムをいれてはいかがか。

■事務局

- ・レイアウトの都合もあるので、デザイナーの方とも相談しつつ、コラムをいれるかどうか検討していきたい。

【指標について】

■糸久副委員長

- ・「（３）“つなぐ”チャレンジ」の指標を「事業所数を維持」としているが、一方で「（１）“立ち上げる”チャレンジ」では「開業率の上昇」を指標としていることを踏まえると、多産少死を目指すということか。イノベーションを考える際には事業所の新陳代謝も重要な観点だが、「維持」という表現で十分か。また、最近、世界的に「老舗企業」が注目されている。何年以上を「老舗」とするかは様々な議論があるが、例えば創業から 30 年以上や 50 年以上を基準とした企業の数というのも指標になり得るのではないか。

■事務局

- ・開業を支援しつつ、一方で廃業していく事業所もあると思うので、結果として全体的な事業所数を現在の水準で保っていききたいとの意図で「維持」としているが、表現としていかがか。

■糸久副委員長

- ・多くの事業所が開業する一方で、廃業する事業所があることも想定しているということであれば、「維持」でよいのではないか。

■事務局

- ・今の議論を踏まえ、本計画上の表現を「事業所数を維持」としたい。

■西村氏

- ・起業する人は廃業のリスクを心配する方が多いので、「町田市なら失敗しても継続的に支援を受ける

ことができる」ということを、計画の中でうまく表現できるとよいのではないか。

(2) 実行計画案の確認

■佐々木委員

- ・資料3の15ページにある「2-(1)-②新技术を用いた商品・サービス開発、販売等の促進」の指標に「商業事業者を主な対象とした新技术に関する情報提供の実施件数」とあるが、情報提供とはセミナーのことか。

■事務局

- ・今のところ、セミナー等を想定している。

■佐々木委員

- ・資料3の16ページにある「2-(1)-③新しいビジネスモデルに挑戦する事業者を支援」のスケジュールをみると「実証実験の支援スキームの構築」に2年かける想定となっているが、実証実験にもいろいろあり、内容によっては、すぐに実施についての検討が可能なものがあるのではないか。例えば、シェアリングエコノミーに関するプラットフォームの構築などについては、比較的すぐに対応が可能ではないかと思う。2年間かけて支援スキームを構築するだけというのは、少しのんびりしているような印象を受けるので、可能なものについては早めに対応するようにしていったほうがよいのではないか。

■事務局

- ・ただいまお話のあったシェアリングエコノミーについては、現在盛り上がりを見せつつある分野でもあり、町田新産業創造センターと基盤づくりに向けた打ち合わせ等をさせていただいているところではあるが、このように比較的实施が容易な実証実験については、随時支援していけるような体制を整えたいと考えている。なお、ある程度規模感のある実証実験では、各種調整に時間を要することが想定されるため、支援スキームの構築に要する期間を2年としているが、これだけに取り組むのではなく、支援スキームを構築しつつ、実施可能な実証実験があれば随時対応していくということが分かるような書き方に改めたい。

■太細委員

- ・2019年度から行う新規事業は、事業の開始まであまり時間がないのではないかと思うが、確実に来年度から始める、確度の高い事業ということでよろしいか。

■事務局

- ・おっしゃる通り、現時点での想定にはなるが、2019年度から行う事業については既に調整を進めている。今後の予算審議の結果等を反映した上で、随時実施していきたいと考えている。

■太細委員

- ・実施主体に「町田市（産業政策課）」や「町田商工会議所」等とあるが、これら主体の役割分担や棲み

分けはどうかっているか。

■事務局

- ・継続事業と拡充事業については、既にその事業を実施している主体がいるので、現在の実施状況をベースに記載している。「町田市（産業政策課）」のみが記載されている事業は、新規事業が多いが、市が単体で行うことができる事業はあまりないため、基本的には市が主体となって他の主体と協議しながら進めていくということを想定している。

■事務局

- ・事業の概ねの予算規模が示されていないと、読み手からは「絵にかいた餅」のように思われてしまうかもしれないので、予算について記載するかどうか内部で検討したい。

■小山委員

- ・実施主体が「町田市（産業政策課）」ではない事業も含まれていると思うが、本計画に関する問い合わせ先はひとつにまとめておいた方がよいのではないか。

■事務局

- ・計画に関する問い合わせについては、町田市産業政策課で対応していく予定である。

(3) 計画書デザインイメージの確認

【表紙のデザインについて】

■佐々木委員

- ・タイトルのロゴはA案の方がキャッチーでよいと思う。イラストについては、本計画は2028年までの計画なので、青空ではなく未来的なイラスト等にするとういと思う。

■糸久副委員長

- ・表紙については、A案の方がよいと思うが、空の風景が挿入されている市のマークは、本計画の内容に合うようなものにしてもよいと思う。

■事務局

- ・イラストについては、未来的なイメージのイラストにできないか、デザイナーの方に相談してみる。

■大久保委員長

- ・裏表紙に余白が多く、寂しく感じる。ここに何か盛り込めないか。

■菅野委員

- ・今年度、「キラリ☆まちだ祭」と同時開催した、町田商工会議所の30周年記念イベント「Machida Light Up 2018」で、未来の町田について市民から募集したアイデアを、画家の方に絵にさせていただくという取り組みを行った。この時の絵を盛り込むのもよいのではないか。

【将来のイメージについて】

■西村代理

- ・将来のイメージ図について、様々な要素が盛り込まれているが、そのためにどのような場面・時間を想定してを表現しているのかが分かりにくくなっているように感じる。ひとつの絵で全てを表現するのではなく、例えば、特に見せたい場面をいくつかに分けて表現するとよいのではないか。

■事務局

- ・町田市の特徴として、中心市街地の賑わいや閑静な住宅街、多様な事業者の存在、商店街での買い物の様子等様々な要素が挙げられると思われるが、ご指摘の通り、1枚の絵で全てを表現することは難しいと思われるので、表現方法については改めて考えたい。なお、今回提示したイラストは、あくまで「このようなテイストの絵が入る」ということを示すためのものなので、今後、いただいたご意見を踏まえてイラストの作成を進めていきたい。

■大久保委員長

- ・今後は、「社会の持続可能性」がポイントになってくるのではないかとと思うので、環境対策や災害対策に関する要素もイラストに含まれているとよいのではないか。また、交通に関しても、今後10年で技術がかなり進歩すると思うので要素として盛り込んでもよいと思う。

■菅野委員

- ・絵のテイストとしては、親しみやすくよいと思う。

■糸久副委員長

- ・表紙と将来のイメージ図は目立つページなので、本計画における目玉施策に関するイラストを入れる等して、一貫性のあるデザインとなるとよいと感じた。

■事務局

- ・施策に関して、中心市街地にコワーキングスペースやシェアオフィスの誘致等、目玉になりそうな施策もある。働き方をどのように表現するかについては難しい部分もあるが、そういった内容をイラストにも反映できないか検討したい。

【文字について】

■佐々木委員

- ・文字の大きさについては、10ポイントの本文はなんとか読むことはできるが、13ページの注釈については小さくて読みづらいと感じる。

【アイコンについて】

■菅野委員

- ・「ビジネスをやすく、働きやすいまちづくり」のアイコンについて、何を表現しているのかが分かりにくい。

■糸久副委員長

- ・4つの施策の柱とサブタイトル、アイコンの内容が関連づいていると、内容がより分かりやすくなるのではないか。また、各アイコンの色は、どのような意味をもっているのか。

■事務局

- ・それぞれの色に意味をもたせているという訳ではなく、手に取りやすさや、見やすさを意識したカラーバリエーションとしている。

■糸久副委員長

- ・レッド・オーシャンやブルー・オーシャン、グリーンフィールドといった言葉もあり、施策の中身と色のイメージが合っているかどうかは気になってしまうところなので、意味を踏まえてどのような色にするか検討してもよいのではないか。

■西村氏

- ・色から連想されるイメージもあるので、色をもっている正確を踏まえて各アイコンの色を決めてもよいのではないかと思う。

■糸久副委員長

- ・赤色は、「血がたぎっている」、「創業しよう」というイメージも湧くので、それはそれでよいかもしれない。

4 閉会

■大久保委員長

- ・それでは以上で、委員会を終了します。

約1年に渡って、有意義な議論ができたのではないかと感じています。今後は、10年後に向けて、計画の推進にも一緒に取り組んでいけると良いのではと思います。

ありがとうございました。